

# 海外人材育成へ子会社

## 光星学院 国内に働き手紹介

八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)は、フィリピンへの高校、大学開設など海外での事業展開の軸となる「株式会社八戸学院グループ」を12月、同市に設立する。同法人全額出資の子会社。フィリピンの高校や大学で学んだ現地学生と、有望な働き手を確保したい国内企業をつなぐ人材の有料紹介事業などに取り組み、国内外を連携させた教育人材サービス業を

総合的に進める。

同法人常務理事の大谷真樹八戸学院大学学長らが30日、同大で取材に答えた。新会社はスクールバス運営などを行う既存の子会社「学園サービス」を改称・増資する。法官理事長が代表取締役会長、大谷学長が同社長に就任。本社は同大

内に置き、年明けには東京に事務所を設置する。フィリピンに6月開設予定の「八戸学院カールテル高校」敷地内にも事務所を置く。同法人によると、学校法人が海外での人材育成・活用を目的に会社を設立するのは国内では珍しいという。新会社は同法人の国内外

の高校・大学で日本語や文化を学んだ外国人を国内企業に紹介する事業などを実施、収益は同法人に寄付する形を取る。大谷学長は会社設立の目的について、人口減少が進む日本の学校法人が海外事業で収益を上げるには会社組織が必要と指摘。「教育による人材育成で、人材確保に悩む介護やIT産業に貢献する」というビジネスモデルになり得る」と話した。

新会社は来年、フィリピンの大学の卒業生ら約20人を募集し、現地で日本語や文化を集中的に学ばせた上で同市などのIT企業4社に紹介する事業に取り組みという。大谷学長は「単に収益を上げるだけでなく、地域に貢献できる取り組みをしたい」と意欲を語った。

(若松清巳)